

平成 30 年度

郡上市行政点検外部評価委員会 第 2 日目 議事録(要録)

日時：平成 30 年 8 月 31 日(金) 10:30~16:35

場所：郡上市役所 4 階 大会議室

1. 開会

2. 事務局説明

日程及び進め方について

3. 議事

外部評価対象となっている基本方針について、責任課等（責任課、主管課、関係課）が基本方針評価調書（施策点検シート）の詳細説明を行い、委員から責任課等への質疑応答を経て各委員による評価を実施。その後、8月30日、31日の両日で外部評価を行った5つの方針について、外部評価委員会としての総評を行った。

●今回外部評価を行う「基本方針」

(1) 第1分野：地域資源を活かして産業を育てるまち

基本方針4：地域産業の核となる観光・交流産業の活性化を図ります

責任課：商工観光部観光課

(2) 第4分野：香り高い地域文化と心豊かな人を育むまち

基本方針1：確かな学力をもった「郡上人」を育てます

責任課：教育委員会事務局学校教育課

(3) 第5分野：市民と行政が協働でつくるまち

基本方針3：交流・連携によるまちづくりを推進します

責任課：市長公室政策推進課

出席者（敬称略）

【委員】尾藤望委員長、田代光敏副委員長、昇秀樹委員、蒲智美委員、田中栄子委員、井上勇治委員、河合美世子委員、増田雅幸委員、神谷公眞委員、古橋容子委員

【責任課等】①五味川康浩（観光課長）、黒田隆成（観光課長補佐）、和田透（観光課長補佐兼観光係長）

②國居正幸（学校教育課長）、山田智久（教育総務課長）、武藤千輝（学校教育課保健係長）、西川幸広（教育総務課主幹）、此嶋信一（社会教育課主査）

③大野弘勝（政策推進課長）、和田幸広（政策推進課長補佐）、武藤淳（政策推進課地方創生係長）、粥川徹（秘書広報課長補佐）

【職務による出席】日置美晴（市長公室長）、中山 洋（財政課長）

河合保隆（企画課長）、鷺見一久（企画課改革推進係長）、和田淳子（企画課主査）

<発言者>

□…外部評価委員 ■…市

1. 開会

2. 事務局説明

冒頭、企画課長より行政点検の趣旨、外部評価委員会の進め方について説明

3. 議事

(1) 第1分野 基本方針4「地域産業の核となる観光・交流産業の活性化を図ります」

〔責任課より政策、施策、関連する事務事業の内容及び成果について説明〕

<意見>

□ 高速バス停からのデマンドバスは具体的にどのように乗車するのか。

■ 高速バスが予約制になっているので、高速バス予約サイトとリンクを張り、高速バス予約の際にデマンドバスも予約していただくようにしている。

□ 予約しておけば八幡の町の中に連れていってもらえるということか。無料か。

■ 1人350円の負担である。八幡の高速バス停からのデマンドバスは料金がかかるが、下呂市内から高速バス停までは無料である。下呂からのルートは今まで無いルートであり、郡上市に呼び込むことを目的としており、試験的なこともあるので無料としている。高速バスの郡上八幡で降りる方については、タクシーの利用なども考えたが結果としてデマンドバスを運行することとなった。また、下呂からのバスは認可の関係上、既存のバスをつなげばよいのではないかという話になったので、ダイレクトにバスをつないだ。こちら事前予約制であり、予約がない場合は運行しない。

□ 郡上にとって観光業は基幹産業の一つである。欧米では観光のことをビジターズインダストリーと呼んでおり、日本の「観光」より広い意味でとらえている。学会やビジネスの会議で訪れる場合もビジターズインダストリーと呼んでいる。「観光」は「國の光を観る」という言葉からきている良い言葉である。日本では使われて久しい言葉であるが、観光事業の実態としては、従事者の給与単価がとても低い現状がある。私はビジターズインダストリーを集客交流産業、訪問産業と訳しているが、そのようにとらえ対応いただきたい。イベントやビジネスの会議、学会、スポーツの大会の誘致もすべてがビジターズインダストリーであるが、観光業とするとそれらは外れてしまう。日本でいう観光案内所は欧米ではビジターズビューローであり、ビジターに情報提供を行うところである。こちらから積極的に働きかけて郡上市でイベント等をしていただけるよう誘致することが大切である。実質的にビジターズインダストリー、集客交流産業として施策を作っていただきたい。

■ 観光立市郡上の中で、まさに今、スポーツツーリズムという形でスポーツ振興課と連携して美並に人口芝生を作り、吠高原の冷涼なところへのラグビーの合宿誘致や大会誘致などをするなど取り組んでいる。市の組織が連携しながら、観光立市に向かって外から呼び込もうと取り組んでいることを皆さんにわかりやすいように進めたいと思う。

□ ビジターとしてとらえるとこれまでの観光政策よりは広まると思う。この視点は大切だと思う。

□ 有名な観光地に行くと、インスタ映えするようなどころがある。八幡の殿町のお城が見えるところで写真を取ろうとすると電線がたくさん張られている。新町などは踊りの時も電線が邪魔であるが、電線の撤去などは他の課と連携して行うことなど考えているか。

- 八幡は、お城のたもとの古い街並みの柳町・職人町は伝統的建造物群保存地区の指定を受け、建設部が電線の地中化事業を進めているが費用がかなりかかる。今、考えているのは、電柱が気にならない場所の整備とポイント作りである。
- 補助金や国交省の維持管理の予算など活用してはどうか。
- 考えたい。
- 説明の中で何度か「観光地のための素材」という言葉が出てきた。岐阜県内でも関市板取にある通称モネの池、岐阜のマチュピチュと言われる揖斐のお茶畑など、あえてお金をかけて整備しなくてもよいところが、ここ数年のブームかと思う。見直せば郡上市内でもそのようなところがあるかと思うので掘り起こしを試みていただきたい。そして、現在、社会教育課で子どもの講座の手伝いをしているが、郡上の子供が郡上の観光地に行っていないということに気が付いた。郡上の観光地を知っているが行ったことがないという子が多いので、郡上を学ぶということで観光地体験や自然体験とタイアップして行い、親が郡上の観光地に子どもを連れていくことに目が向くような施策を考えていただけるとよいかと思う。
- 高鷲の牧歌の里は市内の小中学生の入場料は無料である。民間との連携の中でスキー場も小中学生、高校生まで無料化の取組みをしている。このような機会作りは必要であると考えている。お城についても市内の小中学生は無料にできたらと思う。収入とのバランスはあるが、協力いただけるところにはお願いしたいと思う。
- 1つは書きぶりのことである。まず、課題で認識したことをどう事務事業で取り組んだかということが市民にわかるように書く必要があるのではないか。【関連する事務事業の成果と課題】は課題に対する成果が記載されて、さらにまた課題が記載されているのでその成果はどういう位置づけかと思う。2つ目は【決算データ及び構成事務事業の実施状況】であるが、18もb評価があるのに、総合評価がCであるが、事務事業と総合評価はつながりがないものか。このまま見れば総合評価はBで良いかと思う。
- 1点目についてはそのとおりである。評価シートが【関連する事務事業の成果と課題】になっているので【関連する事務事業の課題とその成果】とすればよいかと思う。企画課と調整し、わかりやすい形に努めたいと思う。評価については主旨は了解した。
- 実際に外国人を受け入れた時に、私たちの感覚と外国人の感覚は違うと思う。タイなどに行って招聘したその後の調査で指摘事項などにどう対応しているか。後追い調査についてはどうなっているか。
- 平成30年度の事業で、観光客がどのようなことにお金をつかったかという「観光ニーズアンケート調査」という調査を行う。その中では、「どこから来られてどのようなことにお金を使われて、その後どこへ行くか」などの経済効果や消費額などの調査を行う。郡上の魅力をもう一度知っていただくことやSNSに郡上を挙げていただくことは効果があるので、誘客のためにタイの旅行社を1週間ほど招き、ブロガーの方との懇親会をしながら意見交換をしてきた。質の高いものを作り、誘客をしていきたい。平成30年度に入ってから二人連れのバックパッカーの欧米人旅行者が増えており、長期滞在をする傾向にある。なるべく低予算で楽しめる工夫をされているが、宿泊にお金を落としていただきたく、昨年からは宿泊施設改修支援事業で和式トイレやWi-fiなどの整備をしている。また、キャッシュレス化も重要なので大垣共立銀行と連携して試験的に運用している。キャッシュレス化はどこでどれだけお金を使ったかということがわかると思われ、そのデータを活用し分析しながら進めていきたい。
- 実際に観光客に聞いてみないとわからないことが多くある。
- 下呂からの無料バスの狙いはなにか。リピーター確保か。

- とにかく郡上に滞在いただきたいということである。下呂バスは、下呂市から郡上市へ来るバスの運行のみであり、ワンウェイの方法を取っている。昨年度、下呂の観光協会に下呂バスの利用をPRしたが反応が鈍く利用が少なかったので、今年度は戦略を変えて、12月議会で専決予算を組み、12月以降は旅行社に下呂まで来てそれから郡上に来るコースを組んでもらうよう依頼する。近畿日本ツーリストとJR東海には依頼しコースが成立しているが、残念ながら大雨で高山本線が動かなかったので今回は利用に結びつかなかった。
- 現在、健常者ではない方の旅行者も増えており、旅行先がユニバーサルデザインであるかどうかを調べ、高額であっても旅行に行かれる。その辺りについてはどうか。
- トイレについては、国交省の基準で道の駅に必須となっているオストメイトは、市内では大和、白鳥、明宝の道の駅には整備している。バリアフリーについては、岐阜県がバリアフリー施設のホームページを立ち上げ、情報コンテンツの協議会を立ち上げ画像付きで紹介している。八幡のランドマークであるお城のバリアフリー化については難しいので、お城の石垣が見えるところから城内が感じられるような工夫はしたい。川辺についても整備できるとよいが、危険でもあるのでその辺りについてはご意見いただきながら進めたい。
- NHKの朝の番組で各地の名所が映されるが、これは宣伝効果が高いと思う。ぜひ吉田川か郡上八幡城が写るところにNHKのテレビカメラを設置してもらっていただきたい。
- 主旨は了解した。今回、さくらももこさんが亡くなられたことにより反響があった。特にメーテレは長く時間を取って郡上市をコマーシャルしていただいた。このようなフィルムコミッション事業でもいろいろなお話があるので、最低限受け入れ態勢はワンストップ窓口として整えたいと思う。
- 施策点検シートにある「プロパー職員」は何をしているのか。
- 職員1名が専属におり、海外誘客のプロモーションに同行している。地元の方とつながり、様々な情報を基にした手配、郡上踊りの披露、ソーシャルネットワークやインスタグラム、ツイッターの発信もできる。
- 日本版DMOが重要課題として掲載してある。核が観光連盟ということになっていると思うが、若手がないのではないか。また、八幡観光連盟が中枢なので八幡のことはよく考慮されているが、観光客の郡上への滞在時間を長くするなら郡上市全域で考えないといけない。また、観光協会以外の様々な人がもう少し関わらないといけないと思う。
- それが観光人材育成事業であると思う。平成29年度は先進地のツェルマットに学ぶという形で、市民から先進地の観光を学びたい方を募集し、12名に行っていただいた。視察後に報告会を開催し、経営者の方々は今後実践していただく体制づくりを進めている。併せて観光塾という人材育成事業をしている。できれば、若い方に海外でノウハウを学びながらやる気になっていただき、各観光協会の役員になり核となっていただきたい。このように観光連盟と連携したい。観光連盟自身も旧態でなく、DMO化の研修事業も含めて行っているのだから、少し変わった動きを見せることができるのではないかなと思う。
- 先日、テレビで吉祥寺の自虐的ポスターが話題になっていたが、国内向けに何か考えているか。
- 自虐的に良しとする部分と品格の部分がある。
- 自虐的ポスターは印象として残るので効果があるかと思う。
- 議会で指摘されることもあるだろうし、リスクな部分もある。
- うまく郡上ファンの方が取り上げてくれて、話題になるといいかと思う。
- 国内の観光客の見込みが下がっているが、何が要因であるか分析はできているか。
- 冬場のスキーでいうと、バブル期に1,800万人あったスキー人口が、2013年には777万人に落ちて

いる。その要因は1番の主流であった大学生が、親の経済状況に伴い遊ぶ費用も少なくなり、他に娯楽が多様化したこともあり、スキーへ来る回数が減ったことである。また、車離れもある。

□ 資料によると、全国的に国内旅行者が3.3%減っており、それが郡上市も同程度ならとかく言うことはないが、国内旅行者の減りと郡上の旅行者の減りが相関関係にあるのか、または郡上が突出して減っているなどの分析ができていますか。

■ 郡上のスキー場はそこまで落ち込んでいない。スキー人口は約2分の1に減っているが、郡上のスキー場のスキー人口は3割程度の落ちに留まっている。今後は、関西圏から近距離という利点を増やすこと、雪を見たことがない海外の方々を取り込むことを課題として考えている。そして、旅行者から求められているものが価格面で、両極端に分かれている現状には、受け入れ先の宿泊施設や体験施設を値段の合う中で組み合わせるしかないと思う。しかし、確実に団体旅行は減り、個人が主流になっているので、個人が来ていただけるきっかけづくりの情報発信が何より大切である。発信は来られた方が発信する情報が大切なので、郡上ファンを多く作り、そこから発信していただくことが大切だと思う。

□ 基本的に「ある施設を作った」「うまくいってます」という評価が多いが、それが何の効果を生み出すかが大切である。郡上市内と国内全体の相関関係を見据えたことを考えていただけるとよいかと思う。情報の分析とその分析に基づき、市としてはここに力を入れるという評価になるとよい。特に、青山の郡上踊りの活動などは良いと思う。また、八幡の踊りの観光情報で集約されている印象があるので、全体的な分析をしてもらえるとより施策点検シートがよくなると思う。

■ 助言として聞いていただければよいが、工場誘致でなく人材誘致をしてはどうか。有名なのは五木寛之である。五木さんは京都や金沢などに住まいを構えている。作家や映画監督が郡上に住んだら、当然郡上を舞台に映画を撮り、小説を書くであろう。人材誘致ではないが、効果があったのは富良野市の倉本聡である。市の職員が地元と倉本さんの間をうまく取り持って長く滞在していただき、富良野市は「北の国から」などの舞台となった。自治体として人材誘致する戦略はとても効果がある施策である。このようなことを郡上市の戦略として考えていただきたい。最後にインプットで評価するのではなく、アウトカム（成果）で評価していただきたい。

（2）第4分野 基本方針1「確かな学力をもった「郡上人」を育てます」

〔責任課より政策、施策、関連する事務事業の内容及び成果について説明〕

<意見>

□ 3点質問したい。1点は、【今後の展開】の郡上市版教科スタンダードはどのようなものか。今後、少子化に伴い郡上市の人口が少なくなってくると思う。石徹白小学校や小川小学校は地域と連携した取組みをされていて地域の教育力を感じるので、今後地域の方が学校行事に気軽に参加したり、お互いに協力したりする体制づくりをしていただきたい。また、郡上かるたはとても浸透しており小学生は暗唱しており素晴らしい。高校生の話から、中学校で郡上かるたをやっている学校とそうでない学校で差ができていように思う。社会人になるまで学び、子どもたちが覚えて、活かせるようにしていただきたい。

■ 1点目の教科スタンダードについて説明する。平成27年度から平成29年度の3年間にかけて作成に取り組んだ。どの教員も最低限子どもたちに教えるべきことについてまとめ、郡上市独自に基準を揃えたものが郡上市版教科スタンダードである。2点目の「少子化に伴う地域とともにある学

校」について、極小規模校と言われる石徹白小学校、小川小学校、また西和良小学校は地域とともにあり、地域密着型となっている。郡上市内の学校はどこも小規模校が多く、どこも共にある学校を打ち出し、リーダーシップを取りながらやっているのが現状である。他市から赴任した校長が「郡上市は本当に地域が学校に協力的だ」と言われるので、どの地域も順調に行っていると思う。更に深まるように指導したい。3点目の郡上かるたについて、ご指摘のように小学校では暗唱できるくらい学校で熱心に取り組んでいる。中学校では、郡上かるたを取り上げている学校とそうでない学校がある。ご指摘いただいた点について否めない点もあるのでさらに取り組んでいきたい。

■ 給食センターの献立についても、郡上かるたにちなんだ給食を作り、食育を通じたふるさと教育にも取り組んでいる。

□ わかりやすさという点から質問する。目指す成果の「郡上市の教育」実践の重点の達成度調査である「教科指導」達成度向上」と「命の教育カリキュラム達成度の向上」は自己評価と言われたが、先生側から見た評価であり生徒側はどのように考えているのか分かりかねる。この指標を選定した根拠を伺いたい。また、安心して学べるということで特殊学級や不登校の教室を1つ増やされたのは、いじめとかそのような問題があるから増えたのなら、成果指標の中にいじめが報告された数などの具体的な数字を入れてほうがわかりやすいのではないか。

■ 「郡上市の教育」実践の重点の達成度調査である「教科指導」達成度向上」はこの成果指標のために評価をしているのではなく、郡上市の重点が確実に達成されているかどうかをみるためにある。郡上市の全教員が評価しているものを指標として活用している。子どもたちにとってわかりやすい授業であったかどうかという質問は別途全国学力学習調査の中にあり、そのデータを成果指標にした方がよいのではないかという思いがあるので、今後検討したい。命のカリキュラムについても同様に達成度評価で挙げているが、こちらについても教職員の評価でなく子どもたちの目から見た評価を挙げていきたいと思う。2点目の適応指導教室についてであるが、いじめ＝不登校ではない。不登校がいじめを起因とするケースは、郡上市内ではつかんでいない。それよりは精神的な不安定さ、社会情勢の中での複合的なところが要因で不登校、別室登校となっている。そういう精神的な弱さなどを持つ児童生徒を何とか学校につないでいこうというのが、スマイルという適応移動教室である。

□ 先ほど夢のない子が多いと説明があったが、それはとても問題だと思うので、施策としていただくとよいと思う。

□ 郡上市の学校の教室のクーラー設置率はどのくらいであるか。

■ エアコンについては、普通教室については北濃小学校、大和南小学校で国道沿いの窓を開けづらい教室に限り設置している。ただし、保健室、図書室、パソコン室については全学校設置しようという動きで進めているが、今年のように例外的な猛暑を受け、今、教育委員会内では来年度以降すべての普通教室にエアコンが設置できるように要望を行う予定である。

□ 要するに何が言いたいかというと、家庭の環境と学校の環境のどちらが上かということである。日本は明治維新のときに教育立国を掲げ、ずっと小中学校の教育に力をいれてきたので、学校ははるかに一般家庭よりレベルが高く、お金もかかっている。それが戦後の文部省、大蔵省の方針で、ある時期から家庭の方が上になってしまった。だから、「小学校のトイレは汚いから我慢して、家に帰ってから用を足す」というような小学生も結構いる。家庭より良い環境で学べる学校を作ったほうが、資源のない日本にとってはクオリティの高い施策となる。ソフト面で充実させるのは大切であるが、ソフト以前にまずハードがきちんとした環境にあるべきである。そして、災害時の避難所となる体育館もクーラーは必要である。災害時にクーラーもプライバシーもない体育館を避難所として過ごす状態は

先進国であるべきものか。財政的には大変かと思うが優先順位を先に持ってこればよいと思う。クーラーのことは単なる一つの例である。基本は小中学校において家庭よりも良い環境で学ぶ、そういう教育政策ができるようにしていただきたい。

- 全く同感である。学びの環境は、子どもたちが学校に行きたいと思う環境、教職員もここで勤めたいという環境であり、そのような環境づくりは課題である。エアコンの問題についても、猛暑の中で学ぶ子どもの様子を見ると、すぐにでもエアコンを設置したいと思う。ご指摘いただいたところに努力したいと思う。
- 1点目は、成果指標の「特別支援学校との合同研修会等の現状維持」は、いろいろな子がおり大変だと思うのでどんどん回数を増やしていただきたい。2点目は、ふるさと事業は増やす方向かと思うが、予算的に余裕があるのかどうか。3点目は、いじめの話があったが具体的件数を教えていただきたい。4点目は、書きぶりは誤字などあるので見直していただきたい。
- 特別支援教育については、特に発達障害の子どもが顕著に増えている。通常学級に在籍している子の特別支援、ユニバーサルデザインという形で強化を図っていききたい。2点目のふるさと教育の予算については、ハード面もかなり費用がかかるが、「地域とともにある学校」ということで、予算についてはなんとか捻出したいと考えている。3点目のいじめの件数については、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」の平成29年度の集計が49件である。これは報告として上がってきている数値である。平成28年度までは27件であり倍増しているが、これは今まではケンカで済ませていたような内容のものも報告して経過を見るという方針となり、すべて報告するようになったためである。いじめが増えたというよりは、ケンカもすべて含んでいる数字である。
- 重要課題の一番下に「地域の教育力の向上」とあるが、これはどういうことか。そして、「地域のおじさん・おばさんに子どもたちが見守られている意識を高める」と課題認識しながら、【今後の展開】には「登録者の増加」とあり異なっているのはなぜか。
- 「地域の教育力」として重要課題に挙げている点については、地域で見守り活動をするというだけでなく、子育ての難しさを抱えている家庭や親が子どもに家庭教育を充分できない家庭の教育力を高めるということも含んでいる。
- 地域のおじさん・おばさん運動は、岐阜県県民会議の県民運動として募集をしている事業である。私どもも郡上市の市民会議として、郡上市の市民に地域のおじさん・おばさんとして登録していただくよう教育フォーラムや市民会議の総会等をお願いをしている。現状の数値としては、平成29年度の実績が2,098人、目標数値を2,130人である。これはストックの数値なので、登録していただいた方が郡上市から異動されたり死亡されていたりすることも考えられるが、ストックの人数を増やすことを目標と掲げている。今後、登録されている方が声かけ運動できる方であるのかを市民会議で調べていく必要があると考えている。
- 私は、施策点検シートにおいて「地域の子どもに「見守られている」との意識づけを高める必要がある」ということや地域のおじさん・おばさんの人数が増えているということを確認されているにも関わらず、展開として「地域のおじさん・おばさんの人数を増やす」とっかかげているのはおかしいのではないかということをお願いしたい。
- 地域のおじさん・おばさん運動については、登録していただいても大人の声掛けが不十分ということがある。子どもに地域のおじさん・おばさんの認識がないので、地域のおじさん・おばさんが日頃から頻繁に子どもに声をかけていただくことによって「地域のおじさん・おばさん」というような意識づけを図っていききたいと考えている。
- 子どもたちが地域のおじさんおばさんとの直接顔を合わせたり、交流する場はあるのか。

- それはない。
- 登録しているおじさんやおばさんがステッカーやバッジをつけていないのか。
- 登録していただいている方にバッジをお送りしている。
- そのことを子どもたちが知らないのか。
- 毎日、登録したおじさんおばさんが声をかけるわけでもないし、バッジを付けているわけではない。普段すれ違ったところで声をかけてくださいとお願いしている。
- 「子ども 110 番の家」とは違うのか。
- それとは違う。
- 「子ども 110 番の家」については、小学校に入学してすぐに子どもが先生に「このステッカーのあるところの駆け込んでいいんだよ」と連れていってもらい教えてもらったようだ。
- 学校現場では地域のおじさんおばさん運動についての周知が不足している。「子ども 110 番の家」や登下校のオレンジのベストを着た見守りについては、学校と社会教育課がうまく連携しておりよいが、おじさんおばさん運動については課題である。
- 地域のおじさん・おばさん運動について、全く無駄ではないと思うがいくつか思う所もある。登下校の見守り、子ども 110 番の家とは別に、また違う方面から地域のおじさん・おばさん運動というレイヤーを重ねるのではなくて、地域の祭りや運動会で「同じ地域の人なんだ」と子どもが認識する機会があるとよいと思う。また、プログラミング、アクティブラーニングなど、学校の先生は新しくやらなければならないことが増えるばかりである。古くなったことは止めてもよいのではないかと思うが、止めてもよいものがあるのか。そして、凌霜の精神であるが、白虎隊も凌霜隊も郡上のごく一部の人のことである。しかし、郡上全体の精神として掲げられているが、ごく一部の人のものを全体の精神として掲げるには凌霜隊のことを理解する機会がないとわからないのではないか。それで初めて「凌霜」がわかるのでないか。そのあたりをどう考えているか。
- 1 点目の地域のおじさんおばさん運動との結びつきについては、社会教育課と連携しながらこの運動の展開をどうしていくか考えたい。2 点目のプログラミング教育は新たに入ってきたものであり、アクティブラーニングも教職員の負担となっている。働き方改革の面からも「今までやっていたから、今年もやる」というような形にならないように、子どもたちに力のつくものに精選していくことをしていきたい。3 点目の凌霜の精神について、第二次教育基本計画を立ち上げる時から話題になったことである。歴史上において、その時代時代の背景はあるものの、郡上人として脈々と受け継がれてきた「なにくそおかげさま」という言葉で象徴されるような精神（高い志、強い意志、感謝の心）を教育現場でも大事にしていきたいという流れの中で「凌霜の心で拓く明日の郡上」というテーマが掲げられてきた。子どもたちにも歴史認識についてマイナス面についても丁寧に教えながら、郡上が大切にしてきた心を引き継いでいきたいと思う。
- マイナス面があるものを掲げるのはおかしいということではなく、絵に描いた餅みたいに掲げられているのではないかということである。
- 3 点目の凌霜の心については、郡上で生まれ育ち教育を受けた私にとっては体に染みついている。
- 河合委員がおっしゃることはよくわかるが、郡上で生まれて郡上で育った人にとっては、郡上を作り上げた人たちが凌霜の意思を受け継いでこられたということでずっと凌霜の精神を近くに感じているので、郡上の人たちにとっては捉え方がちがうのではないかと思う。
- クールに言えば、時代の転換を読めずに敗れ去った人で、時代の転換期には時代をよく読んで間違えないようにしないとイケないという捉え方もできるということをきちんと伝えておかないといけ

ない。

- ふるさと体験学習における宿泊体験は子どもたちにとって将来の思い出に残る良いことだと思う。実績は7校であるが、これは学校からの申し出か、教育委員会からの指定からかどちらか。
- 2泊3日が7校で、1泊2日は全学校が行っている。2泊3日はさらに充実した体験学習となるように行っている。
- いじめのことである。ケンカもいじめに入れたということであるが、ケンカは子どもが成長するために当然あるので、いじめの中に含めるのはどうかと思う。また、自宅が学校のそばにあるが、先生は早朝から夜遅くまで大変そうである。先生方がもっとゆとりをもって子どもに教えられる環境を作っていただきたい。
- いじめの件については、「被害を受けた側が苦痛と感じたらすべていじめとカウントする」と文科省からいじめの認知の仕方を通達があったようにカウントしている。昔でいえば、ケンカというようなものもあるが、今は複雑化しており、被害者の立場に立って経過を見届けるということである。教職員の働き方改革については、本来の子どもに力をつけさせることにいかに時間を取れるか、それ以外をいかにスリム化できるかということに取り組んでいる。また、夏休みの閉校日などは地域にも声をかけながら進めている。
- 事務事業が施策ごとに並んでいるが、青少年の健全育成に関しては地域のおじさん・おばさん運動を挙げているが、資料には「学校健康管理事業」「家庭教育学級事業」が挙げられている。施策と事務事業が合っていないとおかしいのではないか。
- 調べてみる。

(3) 第5分野 基本方針3「交流・連携によるまちづくりを推進します」

[責任課より政策、施策、関連する事務事業の内容及び成果について説明]

<意見>

- 郡上ファンクラブ「ふるさと郡上会」と東京郡上人会とあるが、郡上市の広報は両方に配るのか。
- 広報については、ふるさと郡上会の会員の中で送料分の1,000円を支払っていただいた方に郵送している。東京郡上人会の方には、東京郡上人会に関するお知らせが中心で他のものは送付していない。
- 広報と一緒に米の宣伝をしていただいたことがあるが、大変役に立った。ふるさと郡上会の進捗状況については、交流・移住推進協議会に事務が移ってしまったから施策点検シートに記載がないのか。
- ふるさと郡上会の方には年2回お知らせを出している。その中に郡上の魅力を知らせるチラシや市が行っているまなびネットの案内も送っているので、要望があれば一緒にお送りすることは可能である。
- ふるさと郡上会の会員数が精査したことによって減ったとのことであるが、減ったことに対する取り組みは考えていないのか。
- 【関連する事務事業の成果と課題】の「①移住・定住の推進」にふるさと郡上会のことを記載していないのは、定住・移住という見方から申し上げると、ふるさと郡上会は移住予備軍のさらに前のものである。この課題としては挙げないで、「④自治体交流」の中で挙げるべき内容だと思う。総務省がいう「関係人口」として、郡上に思いを寄せてくれる方をつなぎとめる媒体としてふるさと郡上会があると認識しているので「①移住・定住の推進」には挙げていない。

- そうであれば「④自治体交流の推進」に挙げるなどの配慮をしていただければと思う。
- ここ数年、住民主体や協働の事業が市内で増えており、活気があって良いと感じている。「郡上に帰ろう！応援事業」について、他から郡上市に移住してくれるのももちろん嬉しいが、やはり郡上から出て行かれた方が郡上に戻って住んでほしいという願いもあるので、Uターン者について取組みを大きく持ってくれると嬉しい。
- Uターン者も事業に含まれている。
- Uターン者への施策を具体的に挙げていただけると良い。行政だけでなく、家庭や地域からも協力を得られる形があるかもしれない。
- 郡上市への定住者数の実績は315人であるが、Uターン、Iターンは何割くらいであるか。
- 市の移住施策に申請された方をカウントし、Uターン・Iターンの区別していないので把握していない。
- Uターン者とIターン者の施策は共通する部分も違う部分もあると思う。税金を使っている以上は効果的にできるように、今後サンプル調査などして割合を把握していただきたい。また、東京あたりで、郡上に移住した方に「郡上に移住してよかったこと」など話していただく機会を設ければ説得力があり、情報提供にもなり良いと思う。
- 移住された方の生の声は説得力があるので、移住セミナーなどの時には郡上に移住された方を連れて行って話す機会を設けることなどしている。
- 分野が「市民と行政が協働でつくるまちづくり」とあって、基本方針が「交流・連携によるまちづくりを推進します」とあるが、市民と行政が協働でつくるまちづくりの下にこのような基本方針が来るのは無理があるかと思う。今後はじっくりくるように考えていただきたい。
- Uターン・Iターンに関して、人数は増えているように見えるが、施策を始めてから結構時間が経っている。郡上に移住されまた出て行かれる方も多数あり、定住しているかどうか大切だが、なぜ出て行かれたかという追跡調査があって初めて定着率がわかるかと思う。定住者数は累積か。1年程の移住は本来の移住にはならないのではないか。Uターン、Iターンへの施策は分けてあった方が良いかと思う。自分の子どもがこちらに帰って来た時のことを考えると、仕事や近所付き合いの面で安心して帰ってくるような施策があるとよいかと思う。
- 成果指標の「郡上市への定住者数の増加」の数値のうち、何人が転出されたかどうかなどの追跡調査までに至っていないが把握することは大切だと思う。
- そこを把握することがUターン者、Iターン者にとって大切かと思う。
- 追跡調査は難しいと思うので、可能な範囲で何年か聞いてみると傾向が見えてくることかと思う。
- 移住促進をしている団体があるが、そこで掌握しているかもしれないので、今後の施策に反映するために把握したいと思う。
- 今後の展開の中で質問がある。「①移住・定住の推進」の中に「連携強化」とあるがこれは、市の組織や民間も入っているのかどうか。「②都市交流の推進」で、「より深い郡上ファンを獲得する仕組みづくり」「移住者に積極的にまちづくりに関わってもらおう仕組み」に郡上市民はどのように参加するのか。移住者だけに考えてもらうのか。「③教育機関等と連携したまちづくりの推進」で、GOOD郡上プロジェクトがいくつか出てきたと説明があったがその代表的なものはどんなものか。「④自治体交流の推進」で、今まで3、4団体が交流しているとあったが、それはどんな団体であるか。
- 「①移住・定住の推進」については、この事業の参加者に類似の市の事業の案内するという感じであったので、重複しないよう職員同士が連携して考えて取り組みたいと考えている。今はまだ市以外の組織との連携までに至っていない。

- NPO 法人があると思うが、そこは連携していないのか。
- 移住・定住に限らず、様々な活動をしている NPO 法人の集まりである「市民活動団体連絡協議会」とは定期的に情報共有のために会議をしている。「②都市交流の推進」については、地域づくりにおいて移住者が新しい力になり得る場合も多い。地域づくりの活動に積極的に取り組んでいただきたいと考えている。白鳥や和良の地域づくり協議会に「移住者の集い」があり、移住者が地元で力を発揮しているところもある。そのようなところの支援もしていきたいと考えている。「③教育機関等と連携したまちづくりの推進」については、八幡中学校が「浴衣 DAY」を立ち上げ、毎年旧庁舎記念館前で踊りを披露する取組み、中高生の鮎釣り選手権、水切り選手権大会などあり、これらは GOOD 郡上プロジェクトを発端として始まったものである。中学生が主体となって行われ、自分たちで考え、事業化するということが始まっている。
- 「④自治体交流の推進」については、物流と人的交流がある。物産的なところでは、商店が東京の物産店に出店されている。人的交流では、スポーツ少年団の相撲連盟が志摩市で相撲関係者と交流したり、少年野球が試合をしたりなどある。
- 物流の関係だと、奥美濃カレーや鶏ちゃん以外の郡上の魅力の発信は考えているか。毎年同じメンバーか。
- 市の交流促進の補助金の活用団体が年間 3～4 団体ある。1 業者としての受付をしていないので、観光協会というような形の申請され、観光協会がいくつかの業者に声をかけ、複数の業者が行かれる感じである。その時々で行く業者は変わってはいる。
- 政策推進課では、昨年度より「郡上藩江戸蔵屋敷」という事業に取り組んでいる。今年度は港区森ビルの六本木ヒルズの庭園で、郡上市の美味しいお米コンテストでグランプリをとられた六ノ里棚田米を、ヒルズにお住まい又はお勤めの方を対象として 5 月に田植えをしてきた。来月 9 月に稲刈りをする際には、郡上市のお米を郡上市の水で炊いたご飯を振る舞い、郡上市に注目いただこうと考えている。また、春にはサンプルを持ち込み、本物あてクイズを行い、正解者にはサンプルの試供品を渡すなどしている。これは単独事業で 1 年の事業であるが、継続事業としては東京での下駄作りを実施している。踊りをコンテンツにしたもの、ジビエをコンテンツにしたもの、ラフティングを対象にしたもの、白山文化にしぼったものなどを提供し、都市部の方の反応を見ながら、また地元業者に情報提供等しながら進めている。この先の展開については、事業者の頑張りとの市の PR の継続も必要であるが、新たなコンテンツがどのような反応を生み出すかということに取り組んでいる。
- 郡上のものを売るだけでなく、東京にあるものを郡上で売ることではないのか。
- そのことも考えているが焦点を絞りたいと思っている。まずはお金を郡上に持ち込めるように、郡上のものを東京に持っていくことに主眼をおいているが、逆に田舎に暮らしながら都会に憧れる若者もいると思うので、そういった欲求を満たすためにこういった交流を活用できたらと考えている。
- 商売はギブアンドテイクなので、岐阜市でも名古屋市でも買えないが郡上で買えるというのも良いかもしれない。
- 成果指標に「市内のフィールドワークに参加した学生数」とあるが、フィールドワークとはどういうものか。そして、関連する事務事業は何であり、何の人数か。成果指標にあげるくらいであるから、かなり力が入っているのではないか。その割には、事務事業として見えてこない。
- フィールドワークは、来週から 2 泊 3 日で、岐阜大学の学生と中部学院大学の学生、日本福祉大学の学生、名古屋学院大学の学生が 20 名ほど来訪される。例えば、八幡町の水の文化やまちづくりというようなテーマでフィールドワークをして、アイデアを出し、発表したりなどする。人数については延べ人数であるので、2 泊 3 日で 80 名くらいのときもある。昨年は母袋地区に岐阜大学の学生の

グループが入られ、母袋の地域づくり活動を支援する取組みがあった。そういったものも延べ人数にカウントしている。

- フィールドワークは日本語でいうとなにか。
- 現地調査をして考察を深めることである。
- そのようなことを企画するのか。
- どのようなことが出来るかという相談に対して、助言したり講師をつけたりなどの協力している。
- 企画参加者が郡上へ来て行うということか。成果指標としてはあるが、実際に取り組んでいるものはないのでないか。
- 直営としての取組みは行っていない。
- 直営でないということは主催が市ではないということか。
- 今回のサマースクールは、文科省が行っている COC という大学連携プログラムを参加団体が受け、現場として郡上八幡を選ばれたので我々は支援をする立場となった。こちらが大学生を集めて行ったものではない。
- 大学が主体となった事業であるが、その連携の中で平成 24 年度から平成 28 年度までは市から大学に職員を派遣し、そこで交流するというのもやってきた。事務事業としてはないが、職員の派遣、郡上市にいながら岐阜大学とのコーディネーターの役割を受けるなどしている。母袋の地域づくりに入ろうとした時もコーディネーターが調整するなどの役割を担いながら連携している実態がある。
- フィールドワークは実踏調査と訳されたりもする。政策推進課で応援するという立場にあり、学生がどんなことをしてどんなゴール設定をするかということには関与しないということか。
- 関与しないで学生に任せている。学生の発表会には伺って結果をフィードバックしていただき活用したこともあった。
- 入れ替わり立ち代わり学生が来て、同じようなことを聞かれ帰って行くようなことばかりにならないと懸念している。
- 平成 28 年 12 月に最初に岐阜大学が母袋で調査を行い、昨年と今年も実施している。3 年間にわたって大和の地域資源を磨き上げようというテーマで地元とやりとりを重ねている。地元も移住者を迎えたいという思いの中で続いている。単年度で終わっていくところもあるが、長期に渡って取り組んでいるところもあるのでご紹介した。
- Uターンについて、郡上市から出て行かれた方は戸籍からわかるのではないか。私も Uターン組であるが、「郡上に帰ってきませんか」というような PR は一度もなかったように思う。そのような PR をしてはどうか。
- 個人情報保護の関係上、戸籍の利用は難しいが、郡上での同窓会の際に使う名簿を利用しての郡上の情報の送付などは良いように思う。
- 高校の名簿があれば同窓会ができる。同窓会も一部であるだけなので、リターン式などを行ってはどうか。
- 卒業前に個人に了解を取り、郡上の関連情報を送るのはどうか。
- 成人式のケーブルテレビのインタビューを見ると、ほとんどの成人が「仕事の問題等があり、年をとってから帰ってくる」という。
- 先日、ハローワークが中学 3 年生を集めて開いた座談会において、パネラーとして参加したが、ほとんどの生徒が郡上市内の企業ことを知らなかった。こんな良い企業があるのかと驚いていたので、このような情報を流さないことは惜しいと思う。
- 郡上には雇用対策協議会もあり、高校に出向いて就職を希望する生徒に郡上の企業について説明す

る事業を毎年実施している。大学に行っている子を持つ保護者に、郡上の企業の説明会などの情報を入れたりなどの取組みはしている。

- 案内は本人に届くことに意味がある。東京で仕事をしていると、当然壁にぶつかる。落ち込んだ時にふるさとの情報があると、ふえるさに帰ろうかと思ったりするので本人に伝えるべきである。
- 夏頃の広報に、盆に子どもが帰ってきたら見せる就職等の情報を入れてはどうか。
- 成人式に名簿を作り案内するので、その際に今後の郡上情報の送付について了解を得ることも考えられる。
- 今はメールで送ることができる。
- メールだとカラーの写真も見えるからよい。
- 「東京郡上人会が自主的に活動するようになってほしい」という思いが伝わってくるが、どのようになってほしいか行政として希望はあるのか。
- 東京郡上人会の方は若干高齢の方が多い。このところ、息子さんや娘さんが来てくださるようになったので、若い人たちのつながりにつなげることができないかと思っている。
- 自主運営するようなことは、自分たちがすごく楽しいか、自分たちに必要なものかである。東京郡上人会も、若い世代にとってメリットがあることでないといけないと思う。
- 東京郡上人会の会員数は数が少ないと思う。目標設定の数値が少ない。東京郡上人会のことがうまく伝わっていないのではないか。また、「教育機関等と連携したまちづくりの推進」について、まちづくりとしてどう捉えているのか。実施していないわけではないと思うが、目標を掲げて施策があるが、具体的な事業がないという計画の立て方はいかがなものか。また、フィールドワークのように、それに対する事業は行っていないが成果があったというのは結果論で評価をしているだけで残念である。行政にとってはこの施策点検シートを作成することに労働時間を割くだけでプラスにならないのではないか。一方でGOOD郡上プロジェクトは良い。あんなにうまく行っている事業は他にないのではないか。このようなことを書くことが、市民が市の頑張りを理解することにつながるようになると思うのでその辺りを見直していただきたい。

◎意見のとりまとめ及び総評について

- 昨年度は基本方針ごとに委員会としての評価を一つにまとめていただいた。特に市の評価を「適正でない」とした場合、その理由について述べていただくことが必要となる。参考に昨年度商工部門において、担当課は「概ね順調である」と評価したものに対して、委員会としては「一部適正な評価が行われていない」と評価してその理由を明記した。皆さんからのご意見をもとに事務局で案を作り、確認・修正を経てまとめていくため、ポイントでよいので、委員会としてこう思うというところを挙げていただきたい。

・「第2分野 基本方針2 循環型社会の実現を図ります」について

- ゴミの減量は皆に呼びかければもっと減らすことができると思うが、その取組みが少ないと思う。
- 旧施設の取り壊しについては外部評価委員会で検討されなかったが、予算的には大きいので説明を聞いておくべきであった。
- リサイクルに対する呼びかけは保育園だけで十分な活動がされているわけでもないのに、「十分だ」という評価はどうかと感じた。
- わかりやすさの点から4Rなどの言葉の注釈が不十分であった。
- 高齢者世帯になればなるほど個包装の需要が増え、可燃ゴミやプラスチックゴミが増えるが、ごみを出さないようにするためには、もっと根本的なことに取り組む方がよいのではないか。田舎ならで

はの方法で、リデュースになるようなことができるよいか。

□ 循環型社会の形成についてはまだ取組みとしてできることがあるのではないか。そういったところに意識がむいていない評価シートになっているのではないかと思うので、「概ね順調」ではなく「一部適正な評価でない」とまとめさせていただきたいが、よろしいか。

□ 了解。

・「第3分野 基本方針3 生きがいもち、安心できる暮らしの実現を目指します」について

□ 次の「3. 支えあい助け合う安心のまち」についてはCが圧倒的多数であったので、Cという方向性でよいか。

□ 縦割りで自分の管轄範囲内でやろうとしている。雇用のことでも市役所内の総合調整さえやっておらず、民間企業やNPO法人とも連絡調整をしていない。問題のとらえ方として、総合行政として、民間企業や住民、NPO法人を巻き込んで対応しないと高齢者の幸せは実現できないので、基本のスタンスを変えていただかないといけない。自分が窓口となって汗をかいて取り組む覚悟と意欲が感じられない。

□ ある程度他の団体と連携した事業施策は間違っていないと思うが、「生きがいづくりはシルバー人材センター」という短絡的なところが市の評価としては不十分だと感じた。 介護予防や生活支援、介護サービスの充実については取り組んでみえると思うが、成年後見の問題などを取り上げて評価はされていないところなどを考えると「概ね順調」という評価にはまだ遠い。

□ どの機関に事業を任せてもよいが、後追い調査が全くできていない。「やりました」で終わってはいけない。

・「第1分野 基本方針4 地域産業の核となる観光・交流産業の活性化を図ります」について

□ 続いて、「1. 地域資源を活かして産業を育てるまち」はBが圧倒的多数であるが、Cという低い評価を責任課がされているがそれはそのままよいかと思う。

□ Bという委員会としての評価は、責任課のCという評価をCと認めるということであるか。

□ 市のCという評価が概ね良いということである。施策点検シートはもう少しわかりやすく作るべきかと思う。

□ 新たに、今ある施策以上の手法を考えながら進めてよいと思う。

□ 「別途資料で用語解説がしてあり良かった」という意見もあったが、私は施策点検シートの中に入れていただくようにしたい。

□ 施策点検シートの書き方に問題があるのではないかというところは意見として入れていただきたい。事務事業が進んでいるという評価の一方で、十分な取組みとは言えないという取組みもあるので、完全な評価から一歩落としてBでどうかと思う。事務局が報告書を作成後、確認したときに違和感があればそこで修正してはどうか。

・「第4分野 基本方針1 確かな学力と豊かな心をもった「郡上人」を育てます」について

□ 次は「確かな学力と豊かな心をもった「郡上人」を育てます」についてはどうか。Bが圧倒的多数であるのでBでよいか。

□ 良い。

□ 小学校中学校の成績が平均を上回っているということは基礎ができているということにつながっており良い。その上で地元を愛する気持ちがあるのは良い。

□ 指標内容がいかげなものか。方向性としては良い方向に行っていると思うが、青少年の健全育成については、地域のおじさんおばさん運動だけであり、施策を見直してもよいのではないかと思う。そういったところを踏まえて、「概ね順調ある」と考える。その他何かあるか。「凌霜の精神」「地域の

おじさんおばさん運動」が不十分なところかと思う。

・「第5分野 基本方針3 交流・連携によるまちづくりを推進します」について

- 最後の「交流・連携によるまちづくりを推進します」であるが、「おおむね適正な評価が行われている」が多数あり妥当かと思う。よろしいか。
- 基本目標・施策・事業が混乱しているのでCとした。「まちづくり」という言葉が人によって捉え方が違うので、定義を明確にすべきでないか。
- 順調というよりも結果論かと感じた。取組み自体に問題があるというよりも、「基本方針」「施策」「事務事業」が意識されないまま並べてあり、それを毎年よく理解しないまま評価しているのではないか。「交流・連携によるまちづくりを推進します」はまさにそうであると思った。毎年、評価に取り組むのなら、評価したことが自分たちにフィードバックするような関係性を作らないといけない。それはどの基本目標においても同じである。これは総括として書いておいてほしい。実施している事業自体は評価すべきところがあるが、評価の立て方としての施策との連携が不十分というところがある。
- 内容が見えない書きぶりである。外部評価委員会で確認して、初めてGOOD郡上プロジェクトや浴衣DAYも内容がわかった。
- 発表や書きぶりもバラバラである。統一した考え方で書いていただくと評価もしやすい。
- 今は以前より良くなった。前はもっとバラバラであった。
- 良くなったからこそ、見えきたのかもしれない。もともと目標があり、そのために施策があり、その施策にひもづく事務事業という計画の立て方がしておらず、既存の事務事業をどこかにあてはめるという形を取った結果がこのようなことである。総括に「今後、施策に対する事務事業という位置関係を全体で見直していただきたい」と書いていただきたい。
- 今回、金額的なところ、決算については答弁しなかった。以前は予算執行に対してどうかと意見した。
- 以前は予算ばかりに目が行き、施策をどうするという本質的な話がなかったので、施策レベルの話に戻した。最初は事務事業ばかりを取り上げ、今回は施策を取り上げたら事務事業が浮いてしまう形になってしまった。本当は一貫した体系ができると、本当の意味で計画と事業が全てリンクしてくる関係性ができてくるのだろうが、なかなか難しい。
- 議論するのは簡単であるが、なかなか難しい。
- いくつらいにまとめはできるか。
- 1ヶ月ほどいただきたい。
- 予定をだいぶオーバーしたが、皆様お疲れ様でした。

16時35分終了

[閉 会]